

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	☐ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念があり実践に努めている。	
2	☐ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールに掲げてあり、共有に努めて日々取り組んでいる。	
3	☐ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	実施できていない。	☐ 家族や地域の方へどのように理念を浸透させることができるか検討していく。
2. 地域との支えあい			
4	☐ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶や会話は行っている。	☐ 気軽に声を掛け合ったり、お茶のみに来ていただけるような関係を築きたい。
5	☐ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所新聞を3ヵ月に1度発行しており、地域の皆様へ回覧板を回している。また、学生の実習生、ボランティアなどの受け入れも行っている。	☐ 行事等に参加してもらえよう声かけを行い、納涼会には近所の方々から参加していただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、そのような取り組みはしていないが、地域の方々に役立つことがあれば取り組んでいきたい。	○	気軽に話し合いができるように、相談や助言ができるような機会をつくりたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初年度のため、スタッフはまだそこまで理解が及んでいない。	○	次回よりスタッフ全員に記入してもらい、理解を深めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の計画は行っているが、今はまだ実施できていない。	○	今年度計画予定である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時、市の担当者と連絡を取り相談・助言をいただいている。	○	サービス評価員の方と意見交換等を行い、サービスの質の確保に取り組んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会や話し合いの場を設定していない。	○	学習会など学ぶ機会を持ち、活用できるように知識を身に付ける必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティングで日ごろからスタッフ間で利用者のかかわりについて話し合い、意見交換や確認を行っている。	○	虐待の防止についての制度的なことや対応方法など、学ぶ機会を持ちたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等をわかり易く説明し、不安や疑問がないように理解してもらい、納得していただいた上で契約している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から意見、不満、苦情を聞き、スタッフ間で共有し、サービスへ反映している。	○	外部者への表せる機会（運営推進会議など）を持ち運営に反映して行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時やお便りと一緒に報告しているが、スタッフの異動等は家族に報告できていない。	○	スタッフの異動時など報告ができていないので確実にしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情箱とご意見箱を設置し、意見などを聞くとともに、面会時や電話連絡時にも意見や要望を聞き、サービスへの取り組みを行っている。	○	定期的にアンケートなどを実施し、施設運営に反映したいと考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや日々の会話の中から意見や要望を聞き取り、できることから実施している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や緊急時など状況に合わせて管理者とスタッフ間で行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動や退職など、やむをえない異動に関しては、引継ぎを行い、ダメージを最小限に抑える努力を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の時間が確保できていない。しかし、外部研修への参加の働きかけは行っている。	○	段階的内部研修を計画的に実施してゆきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのネットワークづくりができておらず、交流や研修の機会がない。	○	単独施設の為、他事業所とのかかわりを持ち、意見交換や情報交換を行い、サービスの質を高めたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの意見や要望を聞き、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	○	話しやすい職場作りを行っていききたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格の取得や一人ひとりが向上心を持ってスキルアップができるよう努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時に生活歴や生活の状況を把握し、不安や困っていることを傾聴し、受容するよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時、本人と家族の要望や不安なことに違いがあるため、話を聞く機会を設けて不安の解消に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の要望や必要なサービスを見極めて、他のサービス紹介や申請などの対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限り安心して入居できるように見学に来ていただいたり、施設内で他の利用者と一緒に過ごして不安をなくしてもらえよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側ではなく生活の場面を通してお互いに支えあう関係であるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームは在宅サービスの一環であり、家族なしでは介護出来ないため、何事にも相談できる関係や体制作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に家族に様子を報告するなど、本人と家族とのパイプ役になれるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人又は自宅付近の方々の訪問もあり、今後も継続的に出来るよう支援に努める。	○	今後も継続して訪問してもらえよう働きかける。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフが利用者同士の関係のパイプ役となるよう支援に努める。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要以上の関わりはないが、希望があれば支援している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望や困っていることを聞き、意向に沿えるよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、スタッフ同士で情報を共有できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状態を把握し、自分で出来ることは極力自分で行っていただき、その人の一日の生活リズムを理解しスタッフ間で共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題の把握やADLの維持・向上を図れるように努めている。	○	日々のケアの中で状況を把握し、介護計画作りに反映できるよう努力したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間や状態変化時において、アセスメント、モニタリングを実施し、介護計画を作成するように努めている。	○	現状に即した対応が出来るように介護計画書の作成を行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、申し送りノートに日々の様子などを記入、スタッフ間で共有し、把握に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医への受診は行っており、また緊急時など受診が必要な場合は家族と協力して柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の協力などは得られていないが、地域の消防団に非常時の協力をお願いしている。	○	地域行事への参加やボランティアの受け入れなど、地域の方々との連携も図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設の申し込みや申請時など、他施設ケアマネ、相談員の方々と調整を図り、本人・家族の意向を重視するよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとサービス事業所間でのミーティングがあり、本年度から参加の予定である。	○	地域包括支援センターとサービス事業所が集まり、月に1回ミーティングを行い情報交換やケアマネジメントについて協働し連携を図っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望している医療機関での受診を行っている。また協力医が主治医の場合はスタッフが受診介助を行っており、個々の要望に応じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医が内科であるため、家人と相談の上、必要に応じて専門医の紹介や治療が受けられるよう支援に努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護スタッフを確保していないため、利用者の健康管理や医療面での支援に不安があるが、協力医の看護師に必要時、相談・助言を受けている。	○	看護職の確保や医療面での人材の確保が必要である。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院関係者と情報交換を行い、退院に向けた対応に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合や終末期について説明しているが、現在該当者がいないため対応に向けた準備を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者はいないが、今後に備えて家族や主治医からも協力が得られるように支援や準備を行っていきたい。	○	家族と話し合い、重度化した際の支援について、かかりつけ医や家族等の相互の協力が図られるよう検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院・退去時は、他職種と情報交換を行い、サマリーを渡すなど、情報の共有に努め、利用者の不安やダメージを防ぐよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格や状況を考慮し、声かけや対応には注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の能力に応じてわかる言葉で声かけし、自己決定の尊重に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、利用者の体調や希望に沿って一人ひとりのペースを大切に支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	望む店にはいけないが、理美容師に来てもらい、本人希望のカットをしてもらっている。服装は個々に合わせた更衣をしている。	○ 理美容店や買い物へ望む店に行けるようシフトなど考えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や後片づけなど、本人が出来る範囲で行っている。また、日曜日は利用者とおやつ作りを行っている。敷地内に畑もあり、野菜を収穫し、食することによって収穫の喜びを分かち合っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事のとき提供しているが、それ以外は支援できていない。一人ひとりの嗜好を把握し、飲み物の希望を聞き、好きなときに飲めるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のチェックを行い、声かけ、トイレ誘導を実施し、オムツ内での排泄を極力なくすように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴ではあるが、本人の体調や希望により、入浴日の変更は行っている。楽しんでいただけるように季節の湯なども提供している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり休息のタイミングが違うので、個々人のペースに合わせて休息が取れるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、掃除、畑仕事、家事全般で本人の能力に応じて出来ることを行っている。感謝の気持ちも忘れずに努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて小額ではあるが管理してもらっている。ほとんどの方はスタッフが管理している。	○	必要なものや本人希望時はスタッフが買い物を行っており、所持や使うことに関して今後の検討課題としたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそっての支援は難しいが、散歩や近所の神社の参拝など出来るだけ外へ出るように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度はドライブ、外食など要望を聞き、季節感を味わえるような外出支援を行っている。	○	家族からの要望も聞き、一緒に外出する機会を検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて電話、手紙の支援を行っている。	○	季節ごとに家族と手紙などのやり取りが出来るよう支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人と家族、知人がいつでも居室やリビングでくつろいでいただけるような環境づくりを行っている。	○	スタッフには来客者への対応など、気軽に訪問していただけるような対応の仕方などの指導も必要だと思う。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアを実践するため、利用者の日々の行動を見ながら支援に取り組んでいる。	○	身体的拘束マニュアルの整備が必要である。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵をかけず所在確認に努めている。居室は換気時以外は鍵をかけているが、リビングの一部は施錠していない。	○	利用者の安全への配慮を行い、鍵のかけないケアへの取り組みを検討したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々の様子を見守り、危険のないよう様子観察や把握に努めている。夜間は定期的に訪室し、安否確認を行い、状態に応じた見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものに関しては保管庫で管理し、利用者の状態に応じて危険のないよう取り組んでいる。薬は施錠できる保管庫で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ、ハット、事故報告書を記録し、スタッフ間で共有し、事故防止に取り組んでいる。また、ミーティングでもスタッフ同士で情報交換を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は実施できていない。	○	救急救命法の講習や定期的な訓練を実施する必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の消防団には緊急時などの対応を依頼してあるが、実際には訓練を実施していない。	○	災害時に避難が出来る方法を身に付けるため、定期的な訓練を実施する必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時に起こりえるリスクについて家族に説明し、理解をえられるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温、バイタルチェック、表情、食事量など、日々の状態を観察し、早期発見につとめている。気付いた点などを介護ノートに記録し、スタッフ間での情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管し、内容・量など随時確認できるようになっている。	○	受診の記録の整理や薬の処方内容を理解し、投薬ミスのないようにする必要がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ラジオ体操や掃除、レクなど身体を動かす機会を設け、なるべく自然排便を促すように努めている。また、水分も多めに飲用してもらっている。必要時はかかりつけ医に相談している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促しており、夕食後は義歯の洗浄を行っている。また、能力に応じて介助、見守りを行うように努めている。	○	歯科医師、歯科衛生士などの訪問を実施し、口腔内の清潔の保持が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クッキングデポを使用し栄養のバランスを考慮している。一日の食事摂取量の記録や水分也多めに摂ってもらっている。他にも好きな時間に飲用できるよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、スタッフには、外出後、調理前など手洗い、うがいを実行している。利用者家族から同意を頂きインフルエンザ予防接種を実施している。	○	感染症に対するマニュアルの整備が必要である。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は漂白除菌や次亜塩素水消毒を毎回行っている。食材はクッキングデポを使用しているため、新鮮で安全なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置いたり、畑もあるため、温かみや家庭的な雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花や装飾などで季節感を味わってもらえるように努めている。テレビの音、スタッフ同士の会話など不快にならないよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツ、小上がり、ソファなど、利用者一人ひとりが自分のペースで休めたり、利用者同士で会話ができ、好きなように時間を過ごして頂けるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きなものをおいたり、作品や行事の写真の掲示など、本人希望により行っている。また、本人や家族と相談し、使い慣れたものを取り入れている。	○	本人の使い慣れたものや馴染のものが持込まれることが少ないので、本人や家族と相談しながら少しずつ増やしたいと考えている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房も利用者の体調に合わせて使用している。また、冬期間は加湿器を配置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは手すりの設置や車椅子の方でも利用できるトイレもある。極力自立歩行を促し、歩行器、シルバーカーを導入し、個別対応に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	カレンダーの工夫、トイレ、風呂場を分かりやすくしたり、一人ひとりの能力を見極め、利用者の目線で対応できるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で野菜作りをしており、収穫を喜んだり、また、外にはベンチがあり、日光浴をしたりと楽しめる空間がある。		